

平成 27 年 4 月 自立支援協議会定例支援会議

日時	平成 27 年 4 月 23 日（木）13:30～15:30
場所	東広島市市民文化センター研修室 1・2
参加者 63 名	松賀苑、平成会、しらとり会、つつじ、ときわ 2 名、広島県立障害者リハビリテーションセンターあけぼの、河内陽だまり作業所、きのこ村、東広島市心身障害児者父母の会 5 名、東広島ろうあ協会 2 名、ピアカウンセラー（聴覚障害担当）、手話通訳者 2 名、広島県手話通訳問題研究会中部ブロック、東広島市手話サークル連絡会 2 名、広島県難聴者・中途失聴者団体連合会東広島支部、東広島市要約筆記サークル花たば、広島県立身体障害者更生相談所、広島県立黒瀬特別支援学校 2 名、広島県立西条特別支援学校、広島西条公共職業安定所、東広島市社会福祉協議会 3 名、自立支援センターつばさ、児童デイサービスいずみ、ともがき、宗近病院、東広島市歯科医師会 2 名、ソレイユ、市民 3 名、市産業部産業振興課、市黒瀬支所福祉保健課、市福祉部高齢者支援課（地域包括支援センター）、市福祉部保育課、市福祉部障害福祉課 5 名、市子育て・障害総合支援センター12 名（順不同）
<p>1. 障害福祉課長あいさつ</p> <p>障害者にかかる制度等がここ数年めまぐるしく変化している。来年 4 月には障害者差別解消法が施行される。厚生労働省では人口減が進む中山間地において児童・高齢者・障害者の施設の統合あるいは融合を進めるとの新聞報道があった。環境や時代の要請によって課題解決の方法も変化していくが、今後とも官民協力して本市の目指す共生のまちづくりを進めていきたい。</p> <p>2. 新着任職員</p> <p>障害福祉課課長・障害支援係長、基幹相談支援センター所長・係員・CD3 名 自己紹介</p> <p>3. 基幹相談支援センター（はあとふる）の役割について（障害福祉課）</p> <p>平成 24 年 4 月より基幹相談支援センターとして相談支援事業所の協力のもと、相談支援体制の充実に努めている。①相談支援 ②自立支援協議会事務局 ③虐待防止 この 3 つの役割を中心として障害特性に応じた、きめ細かい支援体制ができる組織として活動していく。</p> <p>4. 平成 27 年度自立支援協議会の進め方について（障害福祉課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議構成は昨年度と同様で進めていく。毎月の相談支援協議会は課題整理や解決に向けた協議、プロジェクト会議では相談支援会議で協議された中で目的が明確・具体的な事案を集中的に協議する。なお、地域課題発見シートなど相談支援会議の協議の進め方については、会議における意見をもとに改善を行っていくこととしている。「部会」については 7 つの部会と 2 つの連絡会において協議を進める。定例支援会議では情報共有を図るため年 4 回実施。 ・今後も関係機関とともに自立支援協議会を進めていきたい。 <p>5. 平成 26 年度 2 月、3 月、平成 27 年度 4 月相談支援会議の報告（報告者：松賀苑）</p> <p>○「自立支援協議会の評価について」</p>	

- ・自立支援協議会（相談支援会議・プロジェクト会議）の評価。役割や目的、自立支援協議会そのものの周知・理解を進める必要性を確認。
- ・課題解決に向けて協議内容の定期的な経過報告をおこなう。プロジェクト会議においても終了後も経過報告をして現状把握に努める。
- ・地域課題発見シートの改善を図る。

6. 自立支援協議会プロジェクト会議、部会等の進捗状況についての報告

○通学に支援を必要とする児童生徒が活用するツールの開発と活用方法に関するプロジェクト（報告者：はあとふる CD）

- ・1～3月の間に3回の会議を実施。
- ・今後の課題・予定…利用可能な社会資源や相談先をまとめた資源表は今年度中に配布できるようにする。

○聴覚障害者の課題を検討する部会（報告者：ろうあ者専門相談員）

- ・コミュニケーション支援と情報アクセスの2つを柱として協議を進めている。
コミュニケーション支援
聴覚障害者とコミュニケーションが取れる健聴者を増やす取り組みを協議・検討。
情報アクセス
歯科医師会との連携：ハンドブック作成予定
SOSカード：有効活用に向けて、当事者にアンケート実施予定
- ・部会構成団体からの報告 民生委員
- ・今後の課題・予定…①コミュニケーションが取れる地域づくり ②スムーズに情報にアクセスできる環境づくり ③市の総合防災訓練への聴覚障害者の参加

○精神保健福祉部会（報告者：はあとふる CD）

- 「精神に障害がある方が、緊急時に利用する社会資源（ショートステイ等）が不足していることについて」の取り組み。
- ・他市事業所にショートステイ利用の実績・緊急対応状況を確認。東広島市ではどのようにすれば利用につながるかを検討。精神障害に対する理解促進と関係づくりの重要性を再確認。
- ・入院中の当事者に福祉サービスの情報提供を検討。
- ・今後の課題・予定…病院見学に参加し医療との連携を図り、入院中の当事者に福祉サービスの情報提供をする。平成24年度に実施した民生委員との座談会を再び計画中。

○就労部会（報告者：はあとふる CD）

- 1月部会報告から抜粋。
- ・各事業所から…11月の就職フェアおよび1月の合同面接会での面接件数報告、優先調達による募集情報、一般企業への就職のための研修会企画検討等
- ・東広島地域障害者雇用促進チームの立ち上げについて
構成団体：広島西条公共職業安定所、広島中央障害者就業・生活支援センター、東広島市
- ・今後の課題・予定…4月議題。①今年度の部会の役割検討 ②各事業所から情報共有

○権利擁護部会（報告者：はあとふる CD）

- ・権利擁護に関する課題やニーズ確認のためのアンケートを検討。支援者のモチベーションアップにつながる内容を目指して準備中。
- ・今後の課題・予定…①啓発研修企画 ②権利擁護制度創設の検討 ③地域課題の検討 ④福祉計画進捗管理

○ヘルパー支援部会（報告者：NPO 法人ソレイユ）

部会の取り組み報告

- 2月 通学支援について、「緊急時」の定義を確認。現在、障害福祉課で検討中。
- 3月 平成27年度年間計画協議。ヘルパースキルアップ研修3回/年（6月、9月、1月）。
- 4月 夏休みのプール支援について確認。個人情報の取扱いについて確認。
- ・今後の課題・予定…ヘルパーの継続的な確保。ヘルパーの仕事の楽しさを伝える、若い人や有資格者への働きかけ。 ヘルパー部会として他部会やプロジェクトへの参加。

○療育部会（報告者：はあとふる CD）

- ・一貫した支援について
一貫した支援が生活のしづらさを軽減し学びの保障につながることを確認。部会構成団体より連携の実情と課題を報告。連携のための会議名称等の違いや内容の整理を検討。
- ・こどもの発達相談サポートナビについて
改訂版を発行（当日配布）
- ・今後の課題・予定…支援計画に基づいた定例ケア会議開催等の仕組みづくりを継続協議。こどもの支援に関わる事業所の支援方針や内容を知る機会を設ける。

○医療連携部会（報告者：はあとふる CD）

- ・3か月毎の開催。平成26年度第4回を1月28日、臨時会議を3月18日に開催。
- ・医療ケアが必要な方のための資源リストを作成、3月末完成。現在配布中。
- ・今後の課題・予定…①在宅支援プログラムの検討 ②災害時対応の体制整備について ③医療ケアが必要な方が利用できる資源マップの更新 ④実態把握

○相談支援事業所連絡会（NETZ東広島）（報告者：特定相談支援事業所ときわ）

部会の取り組み報告

- 2月 平成27年度の方向性 分野別で事例を出し合い共有する。
- 3月 支給決定ガイドライン（案）検討、特例給付について情報共有
計画相談立案100%達成を確認
- 4月 運営要領確認、事例発表準備
- ・今後の課題・予定…①サービス管理責任者との連携 ②サービス等利用計画の確認・評価 ③相談支援充実強化研修の企画

○障害者施設支援連絡会（SKH東広島）（報告者：はあとふる CD）

平成26年度第4回を3月3日に実施。

- ①各事業所の権利擁護・虐待防止の取り組みについて情報交換、意見交換。

②アメニティフォーラムの報告。毎年2月に滋賀県で開催され、当事者も参加する約1500人規模のフォーラム。職員のモチベーション維持をSKHでの継続協議とすることを確認。

③施設職員向け研修（新任職員向け）企画 目的・内容・日程を協議

- ・今後の課題・予定…①施設職員研修の企画 ②権利擁護制度の実施に向けたアンケートの作成 ③支援者のモチベーションをテーマに協議

○自立支援協議会説明会（報告者：障害福祉課）

・平成25年度にプロジェクトを立ち上げ。これまで、説明パンフレット、DVD作成。

・説明会開催 3月28日（土）

参加者17名 内訳：当事者9名、家族等4名、支援者等4名

- ・今後の課題・予定… ①今後も自立支援協議会の周知のための会を実施検討 ②障害特性に配慮した環境づくりや進め方を検討

【質疑応答】

Q1（東広島ろうあ協会）

- ① ヘルパー支援部に質問。日本の高齢化に伴い、ろう社会も高齢化している。手話のできるヘルパーがどのくらいいるのか教えてもらいたい。
- ② 就労支援におけるろう者への対応方法を伺いたい。
- ③ 一昨年度こちらから提案したことなので、自立支援協議会の説明会開催に感謝している。今後は障害当事者が悩みを話せる場の設定を要望する。

A1①（ヘルパー支援部会）

ヘルパー支援部会として、手話のできるヘルパーの人数把握はしていない。

部会で改めて確認し、7月の定例支援会議で報告する。

②（はあとふる就労支援CD）

聴覚に障害がある方への就労支援の際は、筆談や必要に応じて手話通訳者を活用している。また、ハローワーク広島西条に第1・2・3水曜日の午前10時から12時に設置されている手話協力員を利用して対応している。

③（障害福祉課）

一昨年度ご意見をいただき、準備を進めて昨年度3月に当事者およびご家族等を対象とした自立支援協議会の説明会を開催することができた。自立支援協議会の当事者参加に向けて一歩前進したと感じている。障害の種別などで課題や悩みは異なるかと思う。まずは障害者相談支援センターのはあとふるで相談して欲しい。障害当事者が集まる場の設定についても今後検討していきたい。

Q2（参加者1）

聴覚障害者が集まる場があるようだが、そのような活動の情報が入ってこない。

A2（障害福祉課）

障害によって必要とされる情報が異なる。まずは障害福祉課やはあとふるに情報提供を求めていただきたい。また、課題解決の場として自立支援協議会があるので、活用していただきたい。

Q3（参加者2）

当事者と支援者の間に認識の差がある。その差の発生原因と差を埋めるための方法について考えを伺いたい。例えば、料理ができないためにヘルパーを利用した場合、自分で料理を作ることができるようにと料理教室を勧められることがある。しかし、当事者としては調理方法を知りたいのではなく、余った材料を次にどう活用するのかを知りたい。

A3（はあとふる CD）

例に出されたことを知りたい当事者もおられるであろうし、また違う要望をお持ちの当事者もおられる。そのための計画相談であり、個々の要望に沿ったものを作成するために、相談員と詳細に具体的に話をしてもらいたい。

Q4（参加者2）

例えば50歳代の利用者に対して20～30歳代の若い職員が担当となることがある。それではなかなか意思疎通できない。担当と利用者の老若男女の組み合わせが非常に大切だと思う。

A4（はあとふる CD）

個別具体的なご意見・ご質問については個別に回答させていただく。
この質疑応答では定例支援会議の内容についてお願いしたい。

7. 情報交換

○東広島市社会福祉協議会から

障害のある子どもたちの夏休みのプール支援のための「プール遊び応援隊」（プールボランティア）を募集している。昨年度は25校から50名の申請があった。ボランティアは46名、のべ150回の活動となった。子どもたちの希望に応えるべく各事業所等での周知の協力をお願いしたい。

○地域福祉支援センターときわから

地域貢献の一環として手話講座を開催する。4～9月の全6回講座だが、途中からの参加や当日参加も可。ぜひ周知・参加いただきたい。

以上